

ターンテーブルアキュライザーの活用(3)
—TELEFUNKEN L-61—

1. 始めに

インフラノイズ社から、ターンテーブルアキュライザーTACU-1が発売され、ターンテーブルアキュライザーの導入シリーズでその効果を確認してきました。さらにスピーカーシステムを替えて効果の確認をいたします。

2. ターンテーブルアキュライザーTACU-1の試聴方法

今回は、IPC AM1029 駆動の TELEFUNKEN L-61 のシステムで試聴します。

LP-12 による TELEFUNKEN L-61 の試聴は、[LINN LP-12 の再構成\(30\)](#)で報告しています。

TohrensTD124 による TELEFUNKEN L-61 の試聴は、[ThorensTD124 の活用\(3\)](#)で報告しています。

使用するプレーヤーの最新の状況はそれぞれ以下で報告しています。

LINN LP-12

[LINN LP-12 の再構成\(32\)](#)

[LINN LP-12 の再構成\(34\)](#)

ThorensTD124

[アナログプレーヤーの比較試聴\(18\)](#)

Garrad401

[アナログプレーヤーの比較試聴\(18\)](#)

今回試聴する音源は以下のとおりです。

ドイツグラモフォン MG8333/4

ニコロ・パガニーニ 24の奇想曲

サルヴァトーレ・アッカード (Vn)

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーベン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

3. ターンテーブルアキュライザーTACU-1の試聴結果

再生時には、上記のアナログプレイヤーに TACU-1 をセットし、LINN LP-12 と ThorensTD124 においては、24 の奇想曲と選帝侯のソナタは、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で、ワルキューレは DECCA、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

LINN LP-12 では、24 の奇想曲は、TELEFUNKEN L-61 の高域はコーンツイーターですが、その割には擦弦音がリアルで、ボウイングの細かいニュアンスの表現は十分です。

選帝侯のソナタは、スピーカーのサイズからしてスケール感を出すには無理がありますが、打鍵の響きは豊かで、フレージングがしっかり聴き取れます。

ワルキューレは、スピーカーのサイズからしてスケール感は期待できませんが、ディテールの再現や声や楽器の質感がしっかり出ていますので、まとまりの良いステージ感が再現されています。

ThorensTD124 では、24 の奇想曲は、擦弦音がリアルで、細かいニュアンスの表現もあります。試みに TACU-1 を外したところ、肌理が粗く粗雑な音になります。

選帝侯のソナタは、明るく爽やかな鳴りようです。試みに TACU-1 を外したところ、音色は変わりませんが、締まりがなく大雑把な音になりました。

ワルキューレは、スピーカーのサイズからしてスケール感を出すには無理がありますが、一定程度の精度のよい再生ですので、コンパクトなステージ感が再現されています。

Garrad401 では、24 の奇想曲は、細かいニュアンスの表現もありながら、おおらかに鳴っています。

選帝侯のソナタは、スケール感は期待できませんが、おおらかに響きの良い再生です。

ワルキューレは、スケール感を出すには無理がありますが、ディテールの再現もあり、コンパクトなステージ感が再現されています。

4. まとめ

3 システムとも、TACU-1 の適用により、コーンツイーターのスピーカーで、サイズの関係からスケール感期待できませんが、かなりのところ精度のよい再現で、まとまりがあり、TACU-1 有無の違いも分かります。

以上